ロテン？ノテン？

そもそもが農閑期のじじ・ばばのお楽しみで、若い人からは年寄りっぽいと除け者にされていた温泉(湯治)が、若い女性から支持を得て、若者文化のひとつに数えられるようになったのはいまから 30 年ほど前だろうか。

特にひなびた温泉地の露天風呂は人気がある。リゾートホテルのテラスにしつらえたオープンタイプの風呂だって露天風呂と称して人気があるくらいだから。

山あいの谷深く、人肌に心地よい暖かさの湯の中で、頭の上は星が瞬く宇宙まで何もない。ああこの開放感・解放感。鼓膜が痛くなるくらいの静けさの中、聞こえてくるのは谷川の瀬音だけ。と思ったら、静かに入っていればいいのにワアワアギャアギャア、あのねえ姉ちゃんたち、小学生の遠足じゃないんだからね。

ところでこの露天(ろてん)風呂を野天(のてん)風呂という人がいる。同じように露天商を野天商とも言い、石炭の露天掘りを野天掘りと言ったりする。

意味合いからすれば屋根がない「天に露(あらわ)」なのだから「露天」が正しいと思うが、「天を仰ぐような野っぱら」だから「野天」でいいんだと言われたら、はいそれまで。語感としては決して悪くない。でもなんとなく気になる。どっちかは訛っているんだろうねと。

ではどちらが正しいか。実は日本人には「露天」を「ノテン」といわなけりゃならない重大な秘密があるのである。

日本でも韓国語でも語頭に子音「R」が来ない。フランスで「本田さん」が「恩田さん」になってしまうのと同じようなものである。語中には「たṙる」「こṙごṙ」「しṙれもの」のように現れるが。もともと日本語は文法からして韓国語と同じウラルアルタイ語系の兄弟語だから、発音の法則も近いのだろう。

いまでもシリトリをしていて語頭にラ行の文字がつく名詞が少なくて困ったことがあるだろう。ラ行の単語は唐か天竺か西欧か、外来語に依存するしかない。ところがこの外来語は曲者で日本語と違って語尾が「ン」であるものが多くて負けてしまうのである。

逆に「ん」で終わらなければならない状況に追い込まれたときの決してフェアとはいえない処理方法を伝授しよう。平安時代の日本では「ん」の音がなかったから「む」と言い換えた。中曽根政権以来「日本」を漢語風に「ニッポン」というように仕向けられた。しかし、大和魂としては「にほむ」が正しい。漢語の「みかん」を「みかむ」と言えばいい（これは嘘)。少々本居

宣長風の意見でした。

　それはそれとして、日本では中国語が入ってきたときに早めにラ行を発音する習慣がいきわたってしまったが、韓国語ではこの法則はいまだに健在である。

　朝鮮半島南東部に洛東江という川がある。このあたりは昔「大伽耶」などの小国が密集したところで、日本史では「みまな」と呼んでいる地域を含んでいるのである。馬具の類似性や前方後円墳の存在などで日本の交流が深かったと見られる地域である。韓国ではこの「洛東江」は「ラクトンガン」ではなくて「ナクトンガン」と呼ぶ。

　北朝鮮のミサイルは漢字で書くと「労働」である。だったら「ロドン」というべきところを「ノドン」と言う。もっとも日本と同じく北朝鮮でも最近は英語などの外国語が入ってきて語頭に子音「R」がつけることもあるようだが。

　で、結論は。もともと「露天」は漢語だからほぼ漢語に忠実たらんとすれば、「ロテン」がよろしい。

　でも民族主義的に言うと日本語では「語頭」に「ラ音」がこない音韻法則があるのだから、この法則にしたがって「ノテン」と言ってどこが悪いか。日本人が I think so.を I sink so.といったところで日本人の間ではほとんど問題ないだろう。日本人の間でそんな風に言わないか。

この著作権は岡和男に帰属します。
©Kazuo Oka 2000